

# 入学式の前日に発令された緊急事態宣言で全てが

—顔が見えない中で迎えた新入生—

金田 一史（都立杉並総合高等学校）

急遽、職員招集の校内放送が入った。明日に控えている入学式後の自クラスでのHRの準備を教室でしていた時だ。机椅子を縦横揃えて各列並べ、床、窓、黒板すべてを綺麗に掃除し終え、私はふと油断していた。

緊急事態宣言が発令されたとの報告が職員室で管理職からなされた。必要最低限の明日からの勤務体系について説明がなされ、その場は幕を閉じた。既に定時を過ぎていたので、三々五々に帰路に着く教員も多い中、私は一人、自クラスに戻り、新入生のために用意した黒板アートを雑に消した。

翌日からの生活は一変した。7時前の電車に乗るための朝のせかせかした時間は、大きく変わった。私が業務開始のためにしなけりばならなくなったことは、片道1時間強、乗り換え2回の通勤を経た勤務校の職員玄関に設置してあるタイムカードを通すことではなく、パソコンを立ち上げ、業務開始のメールを管理職に送るといふほんの数メートルの歩行と指先の操作でできることであつた。これまでの通勤時間はなんだつたのか、1日2時間強電車にゆられて行くあの時間は、週に約10時間、月に換算すると40時間で約2日間電車に乗っていた計算である。業務終了の報告も同様にしていたのだが、対面でなされていたようなやりとりが皆無である。「おはようございます」、「お疲れ様でした」。普段何気なくしていた挨拶程度のやりとりもなく、ひたすらメール送信。仕事が終わつても、駅まで共に歩いて帰る同僚もいなければ、ちょっと寄り道していく街角の本屋もない。味気のない生活に思えた。

ただやはり問題だつたのは遠隔授業である。結局のところ、大半の場合は学校のあまりよろしくないネット環境と各家庭の個人端末に頼つての動画配信であつたため通信制限がかかつてしまう。またご家庭によっては接続がままならない。授業動画をライブで配信することは早期に諦め、学校HP、Classi<sup>1</sup>、スタディサプリ<sup>2</sup>、Google Classroomなどの教育プラットフォームを用いての課題配信、提出、授業動画確認がメインストリームになつた。しかしながら、一部動き出しの早かつた私立ではMicrosoftやGoogleなどのIT企業が期間限定で無償提供しているタブレット端末を各生徒に配布し、YouTubeの閲覧制限あるいはZoomなどを利用して、日頃の学校生活と変わらないスケジュール感、いやむしろそれ以上の勢いで授業を実施していたところもあつたようだ。

私の場合、さらに問題であつたのが、担当生徒の9割強が新入生でまだ対面で会えてなかつたことだ。これは1年次生担当の教員すべてに当てはまると思うのだが、はじめまし

<sup>1</sup> ベネッセとソフトバンクの合弁株式会社が開発した学校など教育機関向けの情報発信を促進するための教育プラットフォームである。教員と生徒、保護者との情報共有を可能にしている。

<sup>2</sup> Classiに先行しリクルート社が打ち出していた教育プラットフォームである。通称はスタサブ。予備校講師の動画が閲覧できる点が特長である。

での状態で、手紙を出し、課題を配信し、と年度当初の段取りを全てリモートで進めなければならなかった。学校で何度か話をし、どういう性格の生徒で、昨年度も授業を持っていて、部活でも指導したことがあってといったその生徒のニュアンスがわかればいいのだが、わからない。信頼関係が築かれていない手探りの状態でリモートワークをしつつ、生徒の掌握に努めるといふ二重苦であった。Classi 経由でのアンケート回収なども毎日学校で会えていれば、一声かければ済むのだが、リモートの場合、まずは学校にいる教員へ連絡を取り、該当生徒の連絡先を調べてもらい、生徒自宅に電話をかけ、といった具合に人を介してワンクッション置かねばならない。こういった点は不備でしかなかった。

唯一の救いは、私に I T リテラシーが最低限あったことだ。使い慣れない教育プラットフォームもボタンやシステムの位置が感覚的にわかった。授業グループ作成、課題やお知らせ文書配信、アンケート調査、アンケート回答加工、ビデオ会議の設定、ビデオ通話など一通りのことは難なくこなすことができた。I C T の利用がおぼつかない同僚にも使い方を教えるといった役割を担い、学校組織に少なからず貢献できたのではないかと自負している。

そして、最も大きな変化としてあったのが、教材研究にかかる時間の余裕と授業方法の変化である。コロナ禍以前は、隙間時間や部活の生徒がいなくなった後に、こそこそせかせかと時間を捻出していたのだが、コロナ後は大幅に時間を割くことができるようになった。分散登校や短縮授業、また新しい生活様式での制限がかかったうえでの授業など、少々イレギュラーな面もあり、授業の展開については多くを変えざるを得なかったが、YouTube での学習系動画の活用を中心とした I C T の活用を意識的に増やすことができたように思う。

あたかも、ポストコロナのような記述になってしまったが、本記事を書いている 2021 年 1 月中旬現在、1 都 3 県で緊急事態宣言が再発令され、関西 3 府県でも緊急事態宣言が要請されている。国内では死亡者数が累計で 4000 人にも上っている。そして海外ではより感染力の強いコロナの変異株<sup>3</sup>が確認され、猛威をふるっている。

学校現場は短縮の分散登校に戻り、部分的にリモート授業を導入し始めている。Microsoft365 の Teams、Stream や Forms を用いての授業発信という新たな形での教育が模索されている。学校へ通学する形での教育のあり方が大きく変わり、物理的な距離が取り払われ、誰しもがより優れた教育へアクセスできるような体制に変わりつつある。

学校教育としての在り方、そして学び続ける教員としての真価が問われている。私は学年に所属しながらだが、校内の Teams 研修実施にも活躍の場をいただいている。自らをレベルアップさせるためのひとつのよい機会としたい。

---

<sup>3</sup> <https://www.afpbb.com/articles/-/3324737> より 2021/01/31 情報取得